
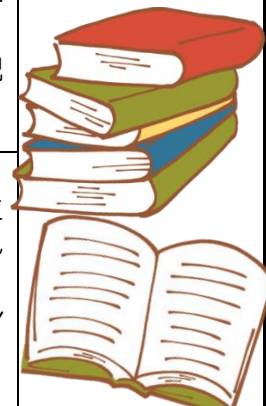


# 南山手の文学館

国語教科書で出会ってきた、もしくは出会う文学作品を、前回（令和6年度・秋の講座）に引き続き取り上げ、読み深めます。小中学校の国語教材としての意義を再確認するとともに、教材化されたことで明らかになる作品が内包する諸問題についても考察してまいりましょう。

- 時 間：13：30～15：30 ●
- 場 所：南公民館 ●
- 講 師：上出 恵子 先生 ●
- 定 員：24 人 ●
- 受講料：無料 ●

## 日程

回	期 日	学 習 内 容	備 考
1	4/25 (金)	◎開講式・オリエンテーション ○夏目漱石『坊っちゃん』（明治39年） 国語教材では『こころ』が定番化していますが、教科書でまず最初に触れるのは『坊っちゃん』だと言えます。キャラの立った登場人物たち、テンポの良い展開など、発表時から広く愛され、今も色あせない作品の魅力について改めて考えます。	持ってくるもの ・筆記用具   講師 上出恵子先生  
2	5/16 (金)	○芥川龍之介『杜子春』（大正9年） 教材となった芥川龍之介の作品と言えば『鼻』や『羅生門』が有名ですが、『蜘蛛の糸』をはじめとする児童文学（童話）も採録されています。ここでは『杜子春』を取り上げ、原拠とされる『杜子春伝』を参照しながら読み深めます。	
3	6/20 (金)	○宮沢賢治『やまなし』（大正12年） 小学校6年生の国語教材である『やまなし』は難教材とされながら、不動の地位を得ています。数多くの教材研究を踏まえながら、『やまなし』の教材化について検討します。また、宮沢賢治が児童・生徒にどのように理解されていくかの確認も行います。	
4	7/18 (金)	○今西祐行『一つの花』（昭和28年） 日本独自のものとして戦争児童文学があります。敗戦体験から生まれたものですが、国語教科書にもこの戦争文学が多く採録されています。その中でも、名作とされる『一つの花』を取り上げ、様々な問題点を指摘されながら、名作とされる理由を明らかにします。 ◎閉講式	

● **申込期間** 令和7年3月1日（土）～令和7年3月31日（月）必着

### ● 申込方法

#### ①電子申請システムによる申し込み

右の2次元コードを読み取るか、長崎市電子申請サービスを検索し「令和7年度春の公民館講座【長崎市南公民館】」から申し込む。

利用者登録せずに申し込む方は[こちら](#)をタップ→利用規約を確認して[同意する](#)をタップ→連絡先メールアドレスを入力して[完了する](#)をタップ→入力したメールアドレスに届いたURLをタップ→申込の画面に必要な事項を記入して[確認へ進む](#)をタップ→[申込み](#)をタップ→[OK](#)→[閉じる](#)→申込受付完了メールが届く。

※**タップ**とは指先で軽く画面を叩くことです。

#### ②往復はがき(170円)による申し込み

講座名、住所、氏名、年齢、電話番号、返信用のあて名をお書きください。

#### ③来館による申し込み

返信用はがきをご持参ください。



※応募者多数の場合は、抽選を行い結果をお知らせいたします。

#### ● 申込み・問合せ先

長崎市南公民館 〒850-0936 長崎市浪の平町7番19号  
TEL095-825-0295 FAX095-825-0294

※南公民館のその他の情報は

長崎市南公民館

検索